

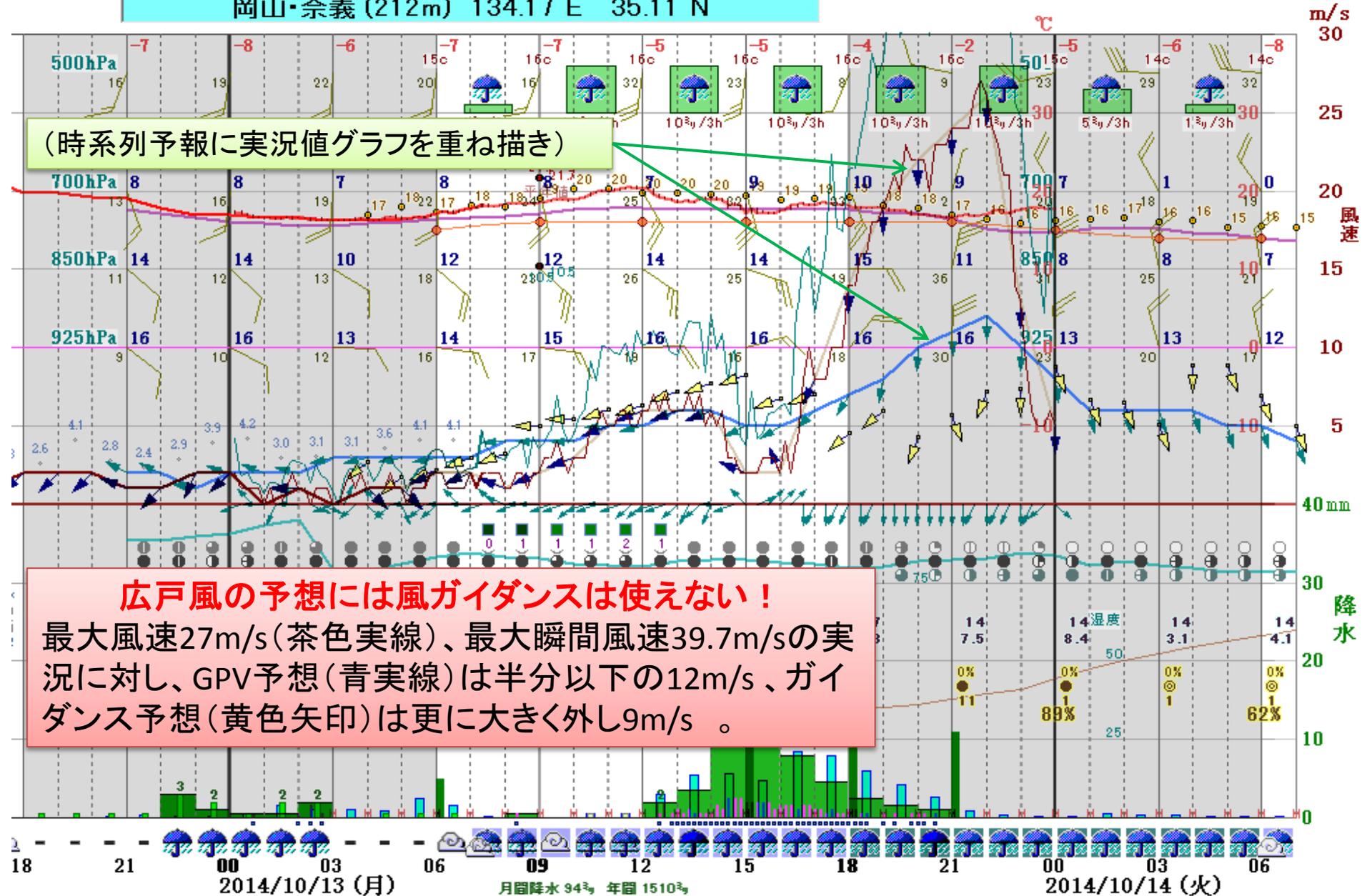
# T1419による「広戸風」発生時の時系列予報 (MSM 18Z ini) と実況の比較 (アメダス奈義)

岡山・奈義 (212m) 134.17 E 35.11 N

(時系列予報に実況値グラフを重ね描き)

**広戸風の予想には風ガイダンスは使えない!**

最大風速27m/s(茶色実線)、最大瞬間風速39.7m/sの実況に対し、GPV予想(青実線)は半分以下の12m/s、ガイダンス予想(黄色矢印)は更に大きく外し9m/s。



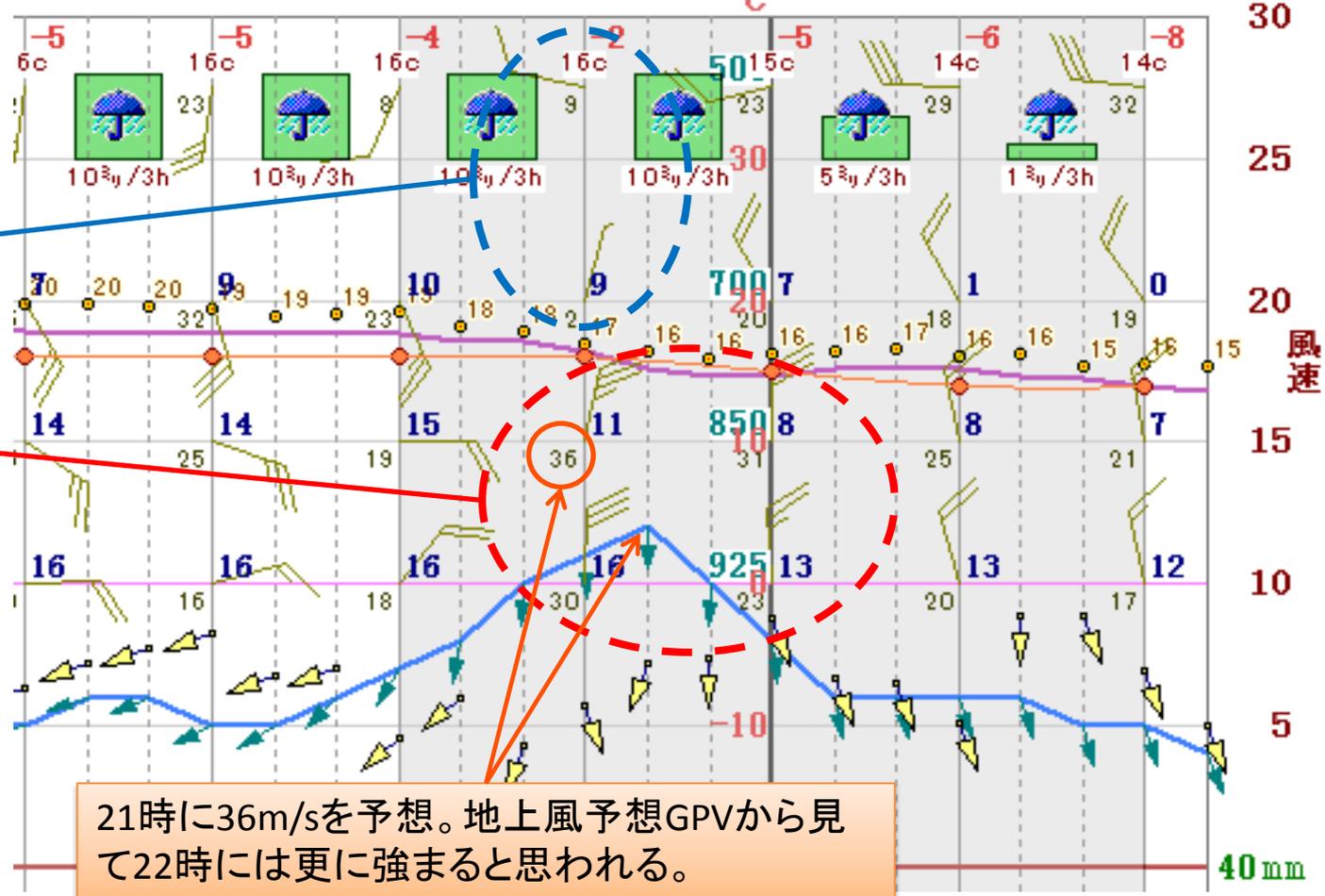
広戸風の最大瞬間風速予想では、地上風のGPV値よりも上空のGPVを参考にする。最大風速は、広戸風の突風率(1.5~1.7程度)を用い最大週間風速から計算。

### 広戸風発生時の特徴的パターン。

・中層に弱風域(よどみ層)が形成される。

・よどみ層の下層(地上付近)に強風層が形成される。  
 ・強風層の風向が北北西~北東になる。

この強風層の中で最大の風速(この事例では850hPaの36m/s強)が地上でも瞬間的に吹く可能性が高い。



モデルの力学過程は、おろし風をかなり精度よく予測しているが、モデル最下層から地上風を予測する物理過程がおろし風に十分対応できていないと考えられる。また、ガイダンスは予想対象時刻で層別化されており、カルマンフィルタの学習機能が逆効果となった。